真鈴（ますず）の水（香川県まんのう町）

暑い日の盛り、讃岐の山奥に一人のお坊さんがやってきました。お坊さんは、おばあさんに「すまんことだが、お茶を一杯いただけないものかな」と言います。おばあさんは、

「このごろは日照り続きで水は少ないのだけど、お坊さんがあがるくらいの水はあるわな」と快く水を差し出しました。おいしそうに水を飲まれたお坊さんは、

「そんなに、水が不自由なのかい」

と言いながら、杖を突いて屋敷の周りを歩かれ、ある一点で歩みを止め、地面を杖で突くと、不思議や水がどんどん湧（わ）いてきます。おばあさんは、お坊さんにお礼を申さねばと思い、辺りを見回しましたが、お坊さんの姿はもう見えませんでした。

「ありがたいことじゃ、ありがたいことじゃ」

と、おばあさんは喜びながら、水に手を入れてみました。すると、水の中で、お坊さんが持っていた鈴のような音が「ちろん、ちろん」とかすかに響きます。真鈴（ますず）と呼ばれるようになった由来です。

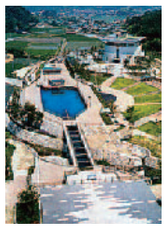
隣村から、少し水を分けてくれないかと言ってきました。おばあさんは、

「水がないのは不自由なことだ。いくらでもくんでお帰りよ」

と親切そのものです。隣村といっても、県境に位置するところなので、阿波の大屋敷からも水をもらいに来ました。水を担（にな）い桶（おけ）（天秤棒（てんびんぼう）にぶら下げて運ぶ杉と竹でできた桶）に入れて一荷（いっか）にし、国境を越えて帰って行きます。そして、お礼にそば一升。水とそばを交換して仲良く暮らした山の村でした。

背　景

真鈴は徳島県との県境に近い香川県の山奥の集落です。この話は、日照りで水がなくて困っていたところに、お坊さんがやってきて水を所望（しょもう）されるので、おばあさんが快（こころよ）く水を差し上げると、飲まれたお坊さんが地面を杖で突き、水があふれ出てくるようになったという話です。同様の弘法大師信仰の話は四国各地にあります。今日、香川用水をめぐって県を越えた人々の複雑な感情もあると考えられますが、自然が与えた水の恵みを、県境を越え思いやりの心で分け合うことの大切さをお大師様が伝えているとも言えます。

アクセス　香川用水記念公園

- 国道32号道の駅「たからだの里さいた」より西南西へ直線距離約３km
- 三豊市財田町財田中2355
- 緯度経度　北緯34度06分01秒，東経133度45分51秒